



第 33 号

いなほ

令和2年11月30日(月)

早稲田大学府中校友会

事務局 東京都府中市緑町

2-21-2

増 本 寛 内

TEL 042-352-4820

E-mail 2012masumoto@gmail.com

事務局長 増 本 寛

編集責任者 大 野 正 道 代

南 橋 本 美 紀

会 長 挨拶

会長 大野 正道 (昭40・理工)

今年は1月に入ってから日本でも新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、この原稿を書いている9月で既に8か月が過ぎ、どうやら第2波が収まりつつあるもののまだまだ気の抜けない状況が続いておりますが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。高齢者が多い当会ではありますが新型コロナにもめげず趣味に仕事にご活躍のことと拝察申し上げます。



不要不急の外出制限、マスク着用、手洗い・消毒・うがいの励行、都市封鎖、学校閉鎖、3密回避、商業・サービスの営業自粛、テレワーク等々これまでの生活様式や仕事のやり方が大きく変化しています。稲門会活動についても2月と5月に大学から年内の会議、総会、イベント等の延期、中止の要請があったことから、府中校友会の年内の行事はすべて中止といたしました。このため例年秋に開催していた総会は今年は書面開催とさせていただきます。ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

また、社会経済活動が大幅に制限されたことともない、早稲田大学では4月に田中愛治総長より「家計支持者の収入激減や学生本人のアルバイト収入の減少で、修学の継続が難しくなる学生が発生していることに鑑み、緊急に経済的支援を必要とする本学学生に一人10万円を迅速に支給することを目的」に大学より約5億円の財政支出を表明し、あわせて全国の稲門会へも緊急支援要請が寄せられました。

直ちにこれに応えるべく三役で協議し、厳しい財政状況ではありますが、府中校友会として10万円を早稲田大学に寄付いたしました。これに加えて会員有志からもそれぞれ応分の寄付をして頂きました。また、三多摩支部からも傘下稲門会会員一人当たり100円の拠出要請があり対応いたしました。

大学からの報告によりますと、寄付は4月24日の要請後1週間で1億円を超え、1か月余りで2億円、6月12日で3億円を超え、8月4日で5億円に達したとのことで、大学の歴史に残ることと感謝していました。

世界で感染者は3000万人を超えパンデミックの収束は未だ見通せない状況ですが、新型コロナウイルスとは今後共生していくことを覚悟して、前向きに人生を生きていきたいと思えます。

皆様も御身ご自愛の上お元気に過ごされますよう、また、校友会活動を再開できる日が1日も早く来ることを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

令和元年度(第43回)総会報告

令和元年11月17日、府中の森芸術劇場2階平成の間において第43回早稲田大学府中校友会総会が開催され、ご来賓を含め73名の出席がありました。第2部の講演会では早稲田大学名誉フェロー、名誉教授であり府中市美術館館長であられる藪野健氏をお招きし、先生の作品とともに早稲田の変遷についてお話を伺いました。(演題「早稲田の時空を超えて」) 引き続き懇親会では高野律雄府中市長にもご挨拶ご参加いただきました。また早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブOGでジャズピアニストの古川奈都子さんに来ていただき、ピアノと歌を披露してもらいました。懇親会終盤では古川さんのピアノに合わせて出席者も歌い和やかな会となりました。

同好会活動、親睦会の詳しい活動内容は
府中校友会のホームページでご覧いただけます

<http://wasedafuchu.tokyo/>

ホームページ検索で で開くこともできます。

令和2年1月までの活動につきましてはこちらのホームページをご覧ください。

府中校友会会員の皆様のご健康をお祈りしますとともに
皆様との再会を楽しみにしております。